

■（１６９）６９年前の艦砲射撃の記憶は消えないが…………

鉄の町・岩手県釜石市は、６９年前も壊滅状態になった。津波ではなく、米英軍による艦砲射撃を２度も受けた結果だ。戦艦からの砲撃の目標は製鉄所だった。周辺の住宅地や市街地にも着弾して焼け野原。オランダ人捕虜を含めて多くの市民が犠牲になった。

その記録を展示する郷土資料館がある。出土した土器や伝統的な農家の部屋、郷土の祭り、７連覇した「新日鉄ラグビー部」の栄光の記録…………。その一画に、戦争の記録コーナーもある。木製の大型プロペラなどが並ぶが、土器などにくらべて資料が少ない。艦砲射撃の紹介ビデオが繰り返し流れているのが目につく。実は、市内には震災半年前にオープンした戦争資料館があった。港そばの市営ビル１階にあったため、津波で資料がすべて流されてしまった。戦後６９年。市民から当時の資料を新たに収集するのはきわめて難しい。被災した郷土史家の遺族が、震災後に寄贈した文献など４千点が貴重な存在になっている。

憲法解釈変更の議論で、あらためて「戦争とは何か」を考えさせられる。体験者が少なくなる中、記録はますます重要になる。震災の記録もきっと将来、必要とされるはずだ。

（山）